

MADE IN JAPAN

らくだのまつげ



RAKUDA

MATJUGE

SUGINAKA MOMOKO



あるところに、まつげのながーいらくだがありました。

らくだはとしをとっていましたが、そのまつげはつやつやとかがやき、とても美しいまつげでした。

その美しいまつげは、砂漠にときおり吹き荒れる砂嵐やざらざらと砂漠をてらす太陽から、長年らくだの目をまもってくれました。

あるところに、まつげのながーいらくだがありました。

らくだはとしをとっていましたが、

そのまつげはつやつやとかがやき、とても美しいまつげでした。

その美しいまつげは、砂漠にときおり吹き荒れる砂嵐や

ざらざらと砂漠をてらす太陽から、

長年らくだの目をまもってくれました。



らくだは、その美しいまつげと同じくらい美しい目をもっていました。まつげにまもられたらくだの目は、らくだが生まれたときのまま、とてもとても透きとおっていました。しかし、その透きとおった美しい目は、どこまでもどこまでも広がる砂漠も、ざらざらと砂漠をてらす太陽も砂漠の夜にほっかりとつかぶお月様も、なんにも知らないままでした。美しいまつげは、らくだの目をすっぽりとおおい隠して、らくだの目にはなにももうつりはしないのでした。

らくだは、その美しいまつげと同じくらい美しい目をもっていました。  
まつげにまもられたらくだの目は、らくだが生まれたときのまま、  
とてもとても透きとおっていました。  
しかし、その透きとおった美しい目は、  
どこまでもどこまでも広がる砂漠も、ざらざらと砂漠をてらす太陽も  
砂漠の夜にほっかりとつかぶお月様も、なんにも知らないままでした。  
美しいまつげは、らくだの目をすっぽりとおおい隠して、らくだの目には  
なにももうつりはしないのでした。



らくだは長いあいだ、のっそりのっそりさばくを歩き続けていました。なんにもみえなくても、らくだはこの砂漠がとても好きでした。  
前がみえなくても、なにもない砂漠ではぶつかる心配もなかったのであんしんして歩くことができました。  
そんなふうに、らくだは砂漠の国で平和にくらしていました。

らくだは長いあいだ、のっそりのっそりさばくを歩き続けていました。  
なんにもみえなくても、らくだはこの砂漠がとても好きでした。  
前がみえなくても、なにもない砂漠ではぶつかる心配もなかったので  
あんしんして歩くことができました。  
そんなふうに、らくだは砂漠の国で平和にくらしていました。



ある晩、とてもつよい砂嵐がさばくにふきあれました。  
らくだは砂漠にじっとうずくまって、砂嵐がすぎるのを待っていました。  
どのくらいの時間がたったのでしょうか？らくだはいつのまにかねむってしまいました。

ある晩、とてもつよい砂嵐がさばくにふきあれました。  
らくだは砂漠にじっとうずくまって、砂嵐がすぎるのを待っていました。  
どのくらいの時間がたったのでしょうか？  
らくだはいつのまにかねむってしまいました。



らくだは夢をみていました。夢のなかでらくだはふつうのらくだでした。  
 ぱっちりとした目で、らくだはいろいろなものに出会いました。  
 夢のなかでらくだは初めて、どこまでもどこまでもつづく、広い砂漠をみました。  
 ざらざらと砂漠をてらす太陽をみました。どこまでもどこまでも青くひろがる空をみました。

らくだは夢をみていました。

夢のなかでらくだはふつうのらくだでした。

ぱっちりとした目で、らくだはいろいろなものに出会いました。

夢のなかでらくだは初めて、

どこまでもどこまでもつづく広い砂漠をみました。

ざらざらと砂漠をてらす太陽をみました。

どこまでもどこまでも青くひろがる空をみました。



しかし、砂漠はどこまでもどこまでも続き、らくだをたいそう疲れさせました。  
ぎらぎらと砂漠をてらす太陽はとてもまぶしく、らくだをたいそう疲れさせました。

しかし、砂漠はどこまでもどこまでも続き、らくだをたいそう疲れさせました。  
ぎらぎらと砂漠をてらす太陽はとてもまぶしく、らくだをたいそう疲れさせました。



そうしてらくだはへとへとになって、ついに砂漠にどしり、とたおれました。  
「ぼくはそのまま死んでしまうのだろうか。そうだ、これは夢なんだ。夢ならばやく覚めておくれ。」  
らくだがもうだめだと、目を閉じようとしたとき、らくだは砂漠の夜にぽっかりとかぶ、おおきなおつきさまをみました。

そうしてらくだはへとへとになって、  
ついに砂漠にどしり、とたおれました。  
「ぼくはそのまま死んでしまうのだろうか。  
そうだ、これは夢なんだ。夢ならばやく覚めておくれ。」  
らくだがもうだめだと、目を閉じようとしたとき  
らくだは、砂漠の夜にぽっかりとかぶ、おおきなおつきさまをみました。



砂漠はいつのまにか、夜になっていました。

おつきさまは砂漠の夜をやさしくやさしく照らしていました。おつきさまのやさしいひかりはとてもきれいで、らくだをととても安心させました。

らくだは、はじめてみたおつきさまのひかりをずっとずっとながめたいと思いました。

そしてらくだはゆっくりと目をとじました。

砂漠はいつのまにか、夜になっていました。

おつきさまは砂漠の夜をやさしくやさしく照らしていました。

おつきさまのやさしいひかりはとてもきれいで、

らくだをととても安心させました。

らくだは、はじめてみたおつきさまのひかりを

ずっとずっとながめたいと思いました。

そしてらくだはゆっくりと目をとじました。



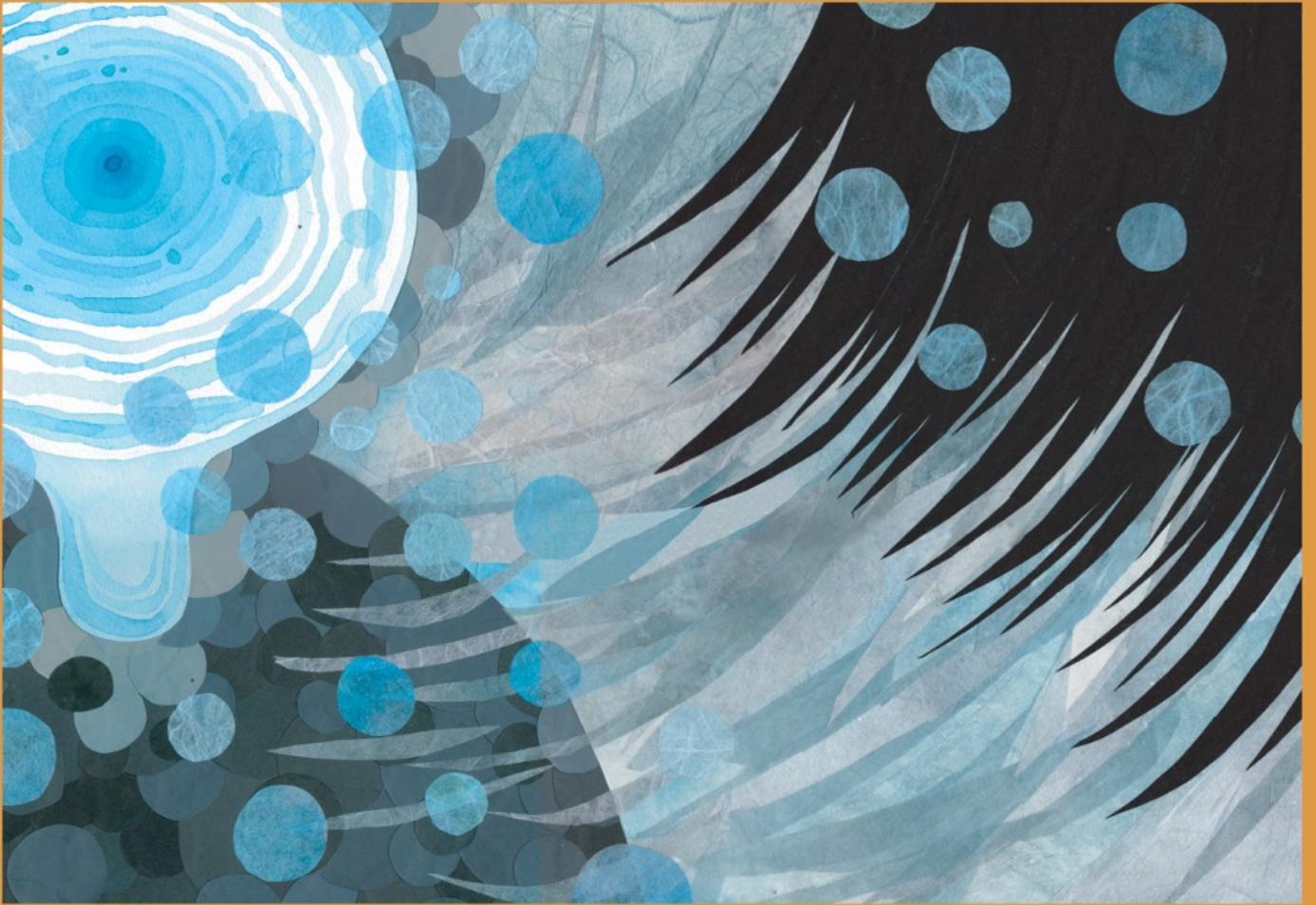
目がさめると、砂嵐はすっかりとはれていつものようにへいわな砂漠でした。  
 らくだのまつげもいつものようにながく、つやつやとかがやいています。いつものように、らくだはのっそりのっそり砂漠をあるきだしました。  
 ながいまつげにまもられたらくだの目は、気の遠くなるようなひろい砂漠も、ぎらぎらとさすようなまぶしい太陽もみることはありません。  
 いつものような平和なくらしです。

目がさめると、砂嵐はすっかりとはれて  
 いつものようにへいわな砂漠でした。  
 らくだのまつげもいつものようにながく、つやつやとかがやいています。  
 いつものように、らくだはのっそりのっそり砂漠をあるきだしました、  
 ながいまつげにまもられたらくだの目は、  
 気の遠くなるようなひろい砂漠も、ぎらぎらとさすようなまぶしい太陽もみることはありません  
 。  
 いつものような平和なくらしです。



しかし、らくだはもうあの青くひろがる空も砂漠も、きらきらかがやく太陽も、  
そしてやさしく砂漠をてらすおつきさまも、みることはできないのだと思うと、とてもさびしい気持ちになりました。  
らくだはまっくらな砂漠のなかで、ぽつんとひとりぼっちでした

しかし、らくだはもうあの青くひろがる空も砂漠も、  
きらきらかがやく太陽も、  
そしてやさしく砂漠をてらすおつきさまもみることはできないのだと  
思うと、とてもさびしい気持ちになりました。  
らくだはまっくらな砂漠のなかで、ぽつんとひとりぼっちでした。



らくだの目にはじわじわとなみだがうかんできました。  
 じわじわじわじわ、じわじわじわじわ。  
 らくだの目にあつまったなみだは、とうとう粒つぶになってころころとまつげをつたって、ころがっていきました。  
 ころころころころなみだのつぶはとまりません。

らくだの目にはじわじわとなみだがうかんできました。  
 じわじわじわじわ  
 じわじわじわじわ  
 らくだの目にあつまったなみだはとうとう  
 粒つぶになってころころとまつげをつたって、ころがっていきました。  
 ころころころころ  
 なみだのつぶはとまりません。



ころころころころがるなみだのつぶはまつげの先にあつま<sup>つ</sup>って、  
おおきなおおきな、なみだのしずくをつくりました。しずくはまあるくまあるく、  
どんどんおおきくなっていきました。

ころころころころがるなみだのつぶは  
まつげの先にあつま<sup>つ</sup>って、  
おおきなおおきななみだのしずくをつくりました。  
しずくはまあるくまあるく  
どんどんおおきくなっていきました。



そのときらくだは、まつげのさきのおおきなすく<sup>み</sup>のなかに、とてもきれいなまるを見ました。

そのまるはそらのようにすんだ青<sup>あお</sup>いろをして、太陽<sup>たいよう</sup>のようにきらきらとかがやき、おつきさまのようなやさしいまるでした。

そのときらくだは

まつげのさきのおおきなすく<sup>み</sup>のなかにとてもきれいなまるを見ました。

そのまるはそらのようにすんだ青<sup>あお</sup>いろをして、

太陽<sup>たいよう</sup>のようにきらきらとかがやき、

おつきさまのようなやさしいまるでした。



そのきれいなまろは、しずくにうつたらくだの<sup>め</sup>目だったのです。  
らくだははじめて、じぶんのまあるい<sup>め</sup>目をみました。  
ながいあいだまつげにまもられたらくだの<sup>め</sup>目は、まっくらならくだの<sup>さばく</sup>砂漠をやさしくてらし、らくだをとともあんしんさせました。

そのきれいなまろは、しずくにうつた  
らくだの目だったのです。  
らくだははじめてじぶんのまあるい目をみました。  
ながいあいだまつげにまもられたらくだの目は、  
まっくらならくだの砂漠をやさしくてらし、らくだをとともあんしんさせました。



きょうらくだのまつげはなが一くながーく、そしてつやつやとかがやいています。  
らくだは砂漠さばくのなかでひとりぼっち、またあるきはじめました。  
でも、らくだの顔かほはとってもほこらしげ。りっぱなまつげをゆらしながら、どこまでもどこまでも。

きょうらくだのまつげはなが一くながーく、  
そしてつやつやとかがやいています。  
らくだは砂漠のなかでひとりぼっち、またあるきはじめました。  
でも、らくだの顔はとってもほこらしげ。  
りっぱなまつげをゆらしながら、どこまでもどこまでも。